

静岡市基本構想

静岡市

1 静岡市の魅力と人口減少の現状

静岡市には、温暖な気候と豊かな自然環境、温かい人の心と社会の絆、交通の要衝、魅力ある中心市街地、多様で深みのある産業、大学等の多くの教育機関といった多彩な魅力があります。これらの魅力を最大限に活かすことで、多くの人や企業をひきつけ、経済成長を通じて市民一人ひとりが暮らしの豊かさと幸せを実感できるまちへと発展していくことができます。

しかし、現在の静岡市は、こうした魅力を十分に活かしていない状況にあります。日本の総人口のピークは2008年、それに対して、静岡市は、旧2市2町が合併していたとして、1990年が人口のピークです。

多彩な魅力がある静岡市の人口減少が、日本全体よりも、他の多くの都市よりも厳しい状況にあるという現実を直視し、これからの静岡市の市政運営を考えていく必要があります。

2 人口減少がもたらす影響

静岡市の人口は、ピーク時である1990年の73万人から35年が経過した2025年でも、およそ7万人、9%の減少にとどまっています。このように人口減少は減り始めは緩やかです。

しかし、問題はこれからです。すでに人口減少に加速がかかりはじめ、このままではさらに加速していきます。人口減少が進行すれば、地域経済の縮小や生活関連産業の衰退、雇用の縮小など、日常生活への直接的な影響は避けられません。特に、若年層の流出や高齢化の進行は地域の活力を損ない、市民一人ひとりの暮らしの質や幸福度の低下につながるおそれがあります。

また、静岡市の公共施設は、ピーク人口の73万人にもサービスを提供できるように造られています。人口が減少すると、これらへの需要が減り、稼働率が低下します。総人口の減少率に比べて、少子化による小・中学生の減少率は大きいため、これからは学校施設の維持費が重荷になってきます。この結果、市民サービスを縮小せざるを得なくなるおそれがあります。

(注)昭和・平成・令和という元号で表記すると、例えば平成10年が何年前かは分かりにくいいため、本計画では西暦表記に統一しています。

3 市政運営の転換の必要性

深刻な人口減少や知能革命の進展、地球環境の危機など、静岡市を取り巻く状況は大きく変化しており、これからも大きな変化が予想されます。そのため、これからどのような時代になるのかという時代認識を持って、とるべき方策を考える必要があります。

こうした時代においては、目の前の課題に対し、現状を起点として、その延長上で解決策を考えるという、従来のフォアキャスト型の市政運営では、急速な時代の変化に適切に対応できなくなってしまいます。市政運営の転換が必要な時です。

市政運営の転換にあたっては、バックキャスト型の考え方へ移行します。具体的には、まず「目指すべき未来像」を描き、未来像と現状を比べて「現状と課題」を明らかにし、「現状から未来像へ到達するための道筋」を考え、「具体的に何を行うか」を決め、実行に移すという方法により、社会変化に的確に対応していきます。

また、市政運営は、市民が将来にわたって静岡市で幸せに暮らせるようにするために行うものです。このため、未来像を描く際には、行政が何をするかという「アウトプット」に重点を置くのではなく、市民にどのような幸せや暮らしの豊かさがもたらされるかという「アウトカム」を重視する必要があります。

さらに、気候変動による災害の激甚化・頻発化や、地域の稼ぐ力の停滞など、静岡市が直面している問題は、ますます複雑化・深刻化・多様化していきます。こうした多種多様な課題の解決のためには、行政の力だけでなく、市民・地域社会・企業・教育機関・行政など、社会全体の力による「共働・共創」が不可欠です。行政は、社会の力がうまく働き、共働・共創の輪が広がるよう下支えし、結果が出るよう伴走することが必要です。

4 新たな総合計画の策定と「目指すまちと暮らしの姿」

このような新たな市政運営に転換するため、静岡市は新たな総合計画を策定します。

新たな総合計画は、単に行政が行う施策や取組を示すものではありません。市民一人ひとりに暮らしの豊かさや幸せをもたらすことができるよう、市民にとって望ましい社会の姿を「目指すまちと暮らしの姿」として示し、その実現に向けて何を行うべきかを明らかにするとともに、市民・地域社会・企業・教育機関・行政などが協力して、みんなで「目指すまちと暮らしの姿」を共に創っていくこと（共創）により進めていく計画です。

そこで、静岡市が描く「目指すまちと暮らしの姿」を次のとおり定めます。

- 誰もが安心して暮らし、幸せを実感し、
住み続けたいと感じられるまち —

人々が安心して暮らし、幸せを実感し、このまちに住み続けたいと感じられるよう、共創の市政運営を行えば、このまちは、人々が住み続けたい、移住して住みたいまちになります。その結果、「世界に輝く静岡の実現」へとつながっていきます。